

サーチライト With Pastor Jon 創世記 4 章 パート 3

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェロシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェロシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

聖書を学ぶにあたってもう一つ知っておくべきことは、「**あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる。**」(創世記 4:10) の箇所が、補足で『血』が『bloods』と複数形で書かれている聖書があるのです。

イスラエルのユダヤ人は今日でも、たとえば『ホロコースト記念館 YAD VASHEM』(ヤド・ヴァシェム)を訪れると、失われた命について、非常に興味深い表現をしています。

ユダヤ人はヘブル的思考で、一人を殺すと全人類を殺すことになると思っています。

なぜなら、一人を殺すことで、その人から生まれるはずだった子供、子供の子供、そして子供の子供の子供…というように、一人を殺したら全人類を殺すことになるからです。

生まれることができたはずの何千万、何億、何兆もの命。

逆に、一人を救うことによって、全人類が救われる。

もし一人を救えば、何人の人が救われると思いますか？

だから、ヤド・ヴァシェム、ホロコースト記念館には、第二次世界大戦でユダヤ人を救った異邦人を記念して木が植えられているのです。

ユダヤ人は今でも言います。「一人を救えば全人類を救う。」

何百、何千、何百万、数え切れないほどの命を救うことになる。

血『bloods』は、「その一人の人だけでなく、その人から生まれるはずだった何世代もの人を全て絶ててしまった。あなたがその人を殺したために。」と叫んでいるのです。

これが意味するところはとてもシンプルです。

恨みや憎しみ、嫌悪が与える影響は甚大であるということ。

私たちの想像を遥かに超えて甚大で、誰かを長年にわたって嫌い、赦さず、憎み続けるのも、最終的な結果は死であり悲劇です。

だから、神はユダの手紙で、具体的に幾つかの事について気をつけるように言いました。

その内の一つが、「カインの道に行かないように。」恨み、憎しみ、嫌悪、赦さない心。

神が具体的に例を挙げて、私たちに懇願しています。

世界中の誰に対しても、腹を立て、争い、怒ることが絶対にないように。

カインのようにそれを一つでも選び取ると、それがあなた自身に多くの問題をもたらしてしまうから。元カレ、別れた夫や妻、親、上司など誰か、あなたが腹を立てていたり、今でも悪く言ってしまったり、話題にする時に「母があんな事をするなんて信じられない。」とか「彼はこんな事をしたのよ。あり得ない。」と名前が出てしまう相手。

今日、今夜、聖霊があなたの耳元でささやいているかもしれませんね。

「今日、今日…、手放せ…」と。

もし、正しい事を選ぶなら、あなたは回復する。

しかしそうでないなら、罪が戸口で待ち受ける。

創世記を学んでいる時によくあることですが、今回も、この問題についてここまで時間をかけるつもりはなかったの、聖霊がこの学びを導いているのだと感じています。

この中に、今、鬱と闘っている人たちがいるのでしょうか。

鬱の原因は赦さない心、敵意、怒り、恨み…

「正しい事を行いなさい。」と神は言っています。

「だけど、彼は私にしたことの報いを受けるべきよ!!」

「彼女はやったことのツケを払うべきだ!!」

「フェアじゃない!」

キリストの血は、アベルの血よりもすぐれたことを語る。(ヘブル 12:24)

「わたしの息子が全て支払ったのだ。それでも足りないか?」

「彼は、十字架でむごたらしく死んだのだ。まさしくあなたの父親の罪のために。恋人の罪のために。あなたをレイプした犯人の罪のために。」

「手放しなさい。固執しないで、すぐれたことを語る血の元にそれを置きなさい。そうすれば、あなたは回復する。」

「今や、あなたはその土地にのろわれている。(創世記 4:11)

「ああ、カイン。あなたは自分自身を呪っている。」

その土地は口を開いてあなたの手から、あなたの弟の血を受けた。(創世記 4:11)

それで、あなたがその土地を耕しても、土地はもはや、あなたのためにその力を生じない。(創世記 4:12)

「カイン、あなたはもう、自分が望み、思い描くような生活は得られない。」

あなたは地上をさまよい歩かすすらい人となるのだ。(創世記 4:12)

「あなたは放浪者となり、永遠にさすらい歩くのだ。」

カインは主に申し上げた。「私の咎は、大きすぎて、にないきれません。」(創世記 4:13)

「ひどい!!!」

あなたもこんな風に思ったことはありませんか? こんなセリフ、聞いたことはありませんか? でも、カインは自分の問題について、まだ、なに一つ解決していないということを知って下さい。

カインは、「“私”の咎は、大き過ぎて、“私”には担いきれません。」とっています。

「父よ、お赦して下さい。」「私は弟アベルに過ちを犯しました。彼にあんな事をする権利は、私には全くなかったのです。」とは言わなかった。

いいですか? これが、カインが呪われたままである理由なのです。

この状況でも、まだ、“自分”

「“私”の咎は、大き過ぎて、“私”には担いきれません。」

「こんなの間違ってる!」「フェアじゃない!」「腹立つ!」「あり得ない!」

「父よ、憐れんで下さい。正しい事が行えるように導いて下さい。」ではなく、その代わりに彼の頭にあったのは、「こんなフェアじゃない。どうすればいいんだ!? こんな罰には耐えられない。」

「ああ、あなたはきょう私をこの土地から追い出されたので、私はあなたの御顔から隠れ、(創世記 4:14)

皆さん、ここ、聞いて下さい!

“私はあなたの御顔から隠れ” この表現、最高に面白いですね。

“あなたは私から隠れる”のではなく、カインが言ったのは、「私は、もう二度とあなたの顔を見ない。」キーポイントです。

「ひどい!」「腹立つ!!」「もう二度と顔なんか見ない!!!」ブルブル拳を震わせながら。

哀れなカイン。

地上をさまよひ歩くさすらい人とならなければなりません。それで、私に出会う者はだれでも、私を殺すでしょう。(創世記 4:14)

次は、被害妄想。「殺される…」しかし、神の恵み、父の憐みは本当に驚きです。

主は彼に仰せられた。「それだから、だれでもカインを殺す者は、七倍の復讐を受ける。」(創世記 4:15)

神は、尚も過ちを繰り返すこの男を、「誰も彼に手を出すな」と言って、まだ守り続けてくれるのです。

そこで主は、彼に出会う者が、だれも彼を殺すことのないように、カインに一つのしるしをくださった。

(創世記 4:15)

神は「それでもまだ、カインはわたしのものだ。」と言い、恩恵を与えました。

「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする。」(ローマ 12:19)

「わたしが報いる。」

それで、カインは、主の前から去って、(創世記 4:16)

面白い表現です。“カインは神にすがった。”ではなくて、何と書いてありますか?

“主の前から去った”

「出て行ってやる!」「もうたくさんだ!」「もういい!」「フェアじゃない!」「もう戻らない!」「arrivederci!」(アリヴェデルチ; イタリア語・さようなら)「sayonara!」

「adios!」(アディオス; スペイン語・さようなら)

今までにこんなこと、言った覚えはありませんか？ 誰かが言うのを聞いたことは？

「もういい!」「これまでだ!」「放っというて!」カインがそうでした。

彼はどこへ行きましたか？

それで、カインは、主の前から去って、エデンの東、ノデの地に住みついた。(創世記 4:16)

『ノデ』の意味は『さまよう』

カインは『さまよう』という名の地で人生を送りました。

ノデが現在の中国だと信じている神学者がたくさんいて、それなりの理由もいくつかあるのですが、面白い見方です。そうでないかもしれません。分かりません。

とにかくそこは、“神を探し求める地”ではなく、彼は神に背を向けてフラフラと出て行き、さまよいました。(He nods off) Nod (ノデ)

He nods off. Nod (ノデ) に行った。これ、いいですね。いい感じ。

カインは主を探し求めず、ノデに行きました。

カインはその妻を知った。(創世記 4:17)

「ほ——らっ! バイブルマン! この妻はどこから来たんだ!?!」と言いたいでしょ?

“カインの妻はどこから来たのか” この質問、聞いたことはありませんか?

「答えてやるよ、バイブルマン! カインの妻は～」

誰も知らないであろう事を最初に発見した、と思う時の人間のリアクションは本当に面白いですね。

「うわっ! ほんとだ。あなたが言う通り、聖書が間違ってる!」

「大変だ! 聖書は間違ってる! 私が見つけた!」

それで、「カインの妻はどこから来たんだ? はん?」これは、私が今までにノンクリスチャンの人たちから受けた質問の中で、恐らく何よりも多く聞かれた事だと思います。

「で、答えは?」分かりません。聖書は間違っていてミスだらけ、なんでしょ!?

アダムが妻を知り、カインが生まれてアベルが生まれ、そして、たくさんの子供が誕生しました。アダムは 930 歳まで生きたのですから。ものすごくたくさんの子供たち…

「ってことは、カインは…妹と結婚したの?」その通り! 「ええーっ!!」大丈夫です。

超大家族のものすごい数の子供たち。それがどんどん枝分かかれし、更にまた枝分かかれし、次の章で学びますが、こうして世界の人口は急速に増えていきました。

それで、カインは親戚の一人と結婚したということです。

しかし、この時はまだ、人間はそこまで墮落の道を転がり落ちてはおらず、今の私たちが抱える近親相姦のような問題はありませんでした。だから、後になって、神は近親間の結婚を禁じましたが、最初はそうではなかったのです。

なぜなら、人は自分を汚すことを、まだしていなかったから。やがて、肉体的に自分を汚すという状況になっていきますが、この件については、後ほど更に詳しくお話しします。

私は人々が、“カインの妻はどこから来たのか”ということよりも、使徒の働きの中でピリピの看守がパウロに尋ねたようなことを、もっと質問してくれたらどんなに良いかと思います。**「救われるためには、何をしな**

ければなりませんか。」(使徒 16:30)

良い質問ですよ。

「アダムに“おへそ”はあるのか」よりも「カインの妻はどこから来たのか」よりも、とにかくカインは妻を得ました。親戚の一人です。

彼女はみごもり、エノクを産んだ。(創世記 4:17)

このエノクは、5章で登場するエノクとは違う人物です。別のエノク。

カインは町を建てていたので、自分の子の名にちなんで、その町にエノクという名をつけた。

(創世記 4:17)

カインは主から離れ去り、建てた町を神には献げず、息子に献げたのです。

彼は心に決めて、熱心に自分自身の帝国を建てようとしていました。「この町をロックンロールの上に建てよう。」「この町を息子の名にちなんで建てよう。これは我々家族の帝国だ!」

そして、家族がどうなったかを見ていくと、とても面白い。

カインは町を建て、それをエノクと名づけました。『エノク』は『献げる』という意味。

カインはこの町を息子エノクに献げました。

エノクにはイラデが生まれた。(創世記 4:18)

『イラデ』の意味は『逃亡者/放浪者』又は『乱暴者』(wild ass) 面白い…

これに関してはノーコメントです。(＊assには軽蔑的、卑猥な意味の言葉が多い)

とにかく、全てが急速に墮落していきました。

これがカインの子孫、これがカインの町、これがカインの文化、これがカイン家の人々。カインは神に背を向け、神と共にある正しさを選ばず、神から離れると宣言し、今、自分の町を建てました。そして、その子孫がどうなったか。驚きです。

イラデにはメフヤエルが生まれ、(創世記 4:18)

ヘブル語の知識があるなら聞いたかもしれませんが、『エル』はヘブル語で『神』

『メフヤエル』の意味は『神を消す』言い換えれば『神の御名を消し去る』

『乱暴者』(イラデ) から『神である主を消し去る』(メフヤエル) へ。

世が非常な速さで墮落していきます。

メフヤエルにはメトシャエルが生まれ、(創世記 4:18)

メトシェラ (5章) ではなくて、『メトシャエル』

意味は『神の民は死んだ』言い換えれば『神を信じる者は死んだ』

興味深いですね。これは無神論的な侮辱の名前。『神を信じる者は死んだ』

メトシャエルにはレメクが生まれた。(創世記 4:18)

『レメク』の意味は『貧しい』『卑しい』すなわち『貧しくて卑しい』

何にしても、ステキな家系です。これが、ますますひどくなっていきます。

レメク。『貧しくて卑しい』という名の男。

レメクはふたりの妻をめぐらした。(創世記 4:19)

これが、最初の一夫多妻の記述。覚えていて下さい。

初めて言及された規範、一夫多妻。二人の妻。

よく見ていて下さい。これは多くのことを示唆しています。

レメクはふたりの妻をめぐらした。ひとりの名はアダ、他のひとりの名はツィラであった。(創世記 4:19)

『アダ』は『飾り』という意味で、『ツィラ』は『みすぼらしい』

ヘブル語では、『ツィラ』(みすぼらしい)には二つの意味が埋め込まれています。

一つは『誘惑する女』、「彼女は安っぽい女」「けばけばしくてふしだらな女」など。

もう一つは『魅力がない』これが鍵です。

聖書には、偶然や想定外のことは一つもありません。

非常に病んだ世から現れたレメク。神に反逆したカインの血を引いているこの男は、二人の妻を娶りました。ひとは『飾り』、もう一人は『みすぼらしい』

もしかしたら、みすぼらしいツィラは、レメクをそそのかしたか、誘惑したのかもしれませんが。騙したか、罠にかけたのかも。可能性はあります。

また、もしかしたら、ツィラがみすぼらしいという事で、レメクがもう一人、妻を娶ったのかもしれませんが。こちらの方が可能性は高いでしょう。

ひとはみすぼらしくて、もう一人は素晴らしい。彼の目には。

以前お話した内容に戻りますが、人間関係に於いて、人は、二人の主人に仕えることはできません。どちらかを愛し、どちらかを憎む。どちらかを憎み、他方を愛する。

ひとは素晴らしくて、もう一人はみすぼらしい。

もし、あなたが不倫しているなら、夢中になっているなら、空想に浸っているなら、インターネットで画像を見ることにはまっているなら、何であれ、このことを理解しておいて下さい。あなたは片方を愛し、もう片方を憎む。

二人の主人に仕えることはできないし、仕えることをしない。

男であれ女であれ、他の誰かを見て、誰かに惹かれ、誰かのことを考えるなら、結果として、あなたのパートナーは、あなたにとってどんどん魅力のない人になっていく。

人間の魂は、そのように造られているのです。

「ジョン、何でそんなことばかり言うんだ？」

なぜなら、創世記は土台であり、「あなたが生きるこの時代はノアの時代のような。秩序が乱れ、不品行がはびこっている。」とイエスが言っているから。

新聞を読んでいたら、アメリカ人の48%がインターネットのポルノサイト中毒だ、という統計が出ていました。(＊1997年) 私はこれに恐怖を覚えます。

タイム誌が特集した衝撃的な記事を、CNNが取り上げて放送したのを目にした人がいるでしょう。今日、ア

アメリカで最も成長している業界は、インターネットのポルノ業界です。

それは巨大産業で、クリスチャンたちも関わっているのですよ。

牧師や教師として人と関わっている我々にしてみれば、これは非常に納得できることで、問題なのが、夫や妻が寝ている間の、深夜のネットサーフィン。

誘惑に負けて、行くべきではない“部屋”や“場所”に入り込む。

一昔前なら、トレンチコートを着て、サングラスで顔を隠し、隣町のみすぼらしい場所まで車で行ったところを、今は、自分の書斎でログインしてダウンロード…

私たちは今、比べようがないほどの、誘惑に満ちた難しい時代を生きているのです。

つづく

主の目は正しい人たちの上にあり、主の耳は彼らの叫びに傾けられる。

しかし主の顔は、悪をなす者どもに敵対する。(I ペテロ 3:12 新改訳 2017)